

ののうち

発行: ののうち誠後援会
〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670
電話・FAX 0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp
ブログで日々の活動を紹介しています。フェイスブックもやっています。
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

後援会だより— May

発行日: 2019年5月1日

ののうちのまこと VOL.31

令和の時代、こんにちは

改元日の、令和元年5月1日発行の31号です。日本にとって「平成」は災害が多かったものの戦争のない時代で終わりましたが、「令和」も平和な時代が続くよう願っています。明るい未来が開くことができるかは、私たち

の意志と覚悟、行動にかかっています。新時代の幕開けに息吹と希望を共有したいものです。皆様にとって幸多い令和でありますように。

さて5月には、改元後初めての祭典として松江城山稲荷神社式年神幸祭(通称・ホーランエンヤ)も催行されます。松江市議会に目を転ずれば、議員任期4年の半分が過ぎ今後2年間の構成が変わります。

野々内は、令和元年度も、松江市の課題解決や発展に市民目線を基本に活動を進めていきます。



新年度予算などを可決 2月松江市議会

2月定例松江市議会は、2月22日から3月26日までの33日間の会期で開会されました。今議会は、松江市茶の湯条例の

制定などの条例案件や補正予算、一般会計約1002億円などの新年度予算などが提案され、原案通り議決しました。陳情5件のうち2件は不採択となりました。

議員提出議案では、松政クラブが提案し議会運営委員会総意で提出した意見

書など2件を全員賛成で議決し、1件を否決しました。

(予算金額や提出議案の詳細は市ホームページや市報等をご覧ください)

最近の活動から

経済委員会で議会報告会

1月24日、市議会経済委員会は、市内の商工会議所や商工会幹部の21名を招いて「議会報告会(意見交換会)」を開会しました。

第1部は「議会報告」で、11月市議会で経済委員会が議案審議した「イングリッ



意見交換で司会を務めました

シュガーデンの売却などの報告を行いました。

第2部は「意見交換」で、テーマ別に2グループに分け、このうち野々内はAグループの司会を務めました。産業に特化した多様な課題が多く出され、有意義な意見交換ができました。

神幸祭の準備

松江城山稲荷神社式年神幸祭、通称「ホーランエンヤ」をお迎えする地元の準備が進んでいます。

地元の「一向地区神幸祭特別委員会」では、歓迎横断幕の設置、地域周辺の一斉美化・清掃活動などを実施。また、3月17日には馬淵や関係組織の皆さんに出席していただき「神輿船曳航確認会議」を開催。歴史と伝統文化の継承に取り組んでいます。



3月17日の会議

日本伝統工芸展10回入選を祝う会

2月7日、日本工芸会正会員の濱田幸介さんの「日本工芸展10回入賞を祝う会・激励会」が、濱田さんの地元、東出雲町上意東研修センターでありました。

33歳での前記の正会員や10回入賞は、驚異的で素晴らしいこと。一緒にお祝いし、今後の活躍を確信しました。



あいさつする濱田幸介さんと奥さん

ホーランエンヤのお話し多数

10年前にホーランエンヤの紙芝居を作り勉強したことから、そのお話をする機会を得ました。2月24日には地元のシンポジウムでコーディネーター、3月8日には出雲郷小学校3年生に、4月3日には米子市のロータリークラブで、4月20日には松江市白濁の地域歴史の学習グループに。ホーランエンヤの歴史や祭典に興味を持ってもらいたくて頑張りました。



ホーランエンヤのお話し中

ホーランエンヤ中日祭は、東出雲町内だけで開催される祭典です。意宇川での権伝馬船による踊り、陸船による踊りの両方が披露されます。5月22日(水)意宇川→阿太加夜神社

後援会のお知らせ

ののうち誠後援会にご加入いただき、一緒にまちづくりをしていきましょう。この度後援会だよりvol.31を発行いたしましたので、ご覧いただけますようお願い申し上げます。

ののうち誠 プロフィール

昭和25年生まれ(現在68歳)出雲郷小学校→東出雲中学校→島根県立松江農林高校→東出雲町役場就職(平成23年3月に町参事を最後に退職)→平成23年8月松江市議会初当選、平成25年4月2期目当選 平成29年4月3期目当選

ホームページ、ブログはこちらから



◆後援会事務局◆

〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670
TEL・FAX/0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

一般質問

3月1日、野々内は連続30回目の一般質問を行いました。質問は、一問一答で行いました。(一般質問とその回答の全文はホームページのブログで紹介しています)

Q 松江市の可能性とその対策について

①インバウンド観光の可能性と振興策について伺う。

講演会で日本総合研究所首席研究員・藻谷浩介氏のお話を聞きました。訪日外国人客はオリンピック後に勝負のときが来ること、受け皿は地方の隅々にできているが、最下位の山陰はいつ目覚めるかも問われました。人口減で頭打ちの日本人宿泊者、一



藻谷浩介氏の講演

方で外国人観光客はどんどん増えていますが、観光地を多く抱える松江市にとってのインバウンド観光の取



り組みは正念場を迎えています。観光を重点行政課題ととらえる本市として、インバウンド観光にどう取り組んでいくのか、また国内観光客への戦略について市長の考え方を伺います。

松浦市長 今後のインバウンドについては、宿泊者数を増やし、それによって消費額を増やすことが大事だと思っています。宿泊者を増やすためには、ナイトタイムエコノミー、キャッシュレス化を進めていく必要があると思っています。

各県のインバウンドの伸びは、国際定期便を積極的に開設しているところが非常に大きく、国際線の誘致に県と力を合わせて積極的にやっていく必要があると思っています。

国内の観光客については、漸減傾向、減少傾向が顕著に見られています。しかし、消費から事の消費にシフトして



境港に寄港した大型客船

本市では、平成31年度から「新たな森林管理システム」による事業が始まるわけで、今議会において基金条例の制定も議案に挙げられています。

本市として、これらに対応する職員の養成や制度の運用を行うことについて執行準備が整ったと思います。その具体的な状況を伺います。

森山産業経済部長 専門的な知識を有する林政アドバイザーの配置や、新たに設置される推進組織が開催する実務研修などに参加し、職員の知識向上を図り、育成強化を行っていきます。

制度の運用では、森林所有者への制度周知や、今年度整備をしている林地台帳を活用した現況や施業履歴等のデータをもとに、意向調査、現地調査を実施し、申し出のあった森林について、地域協議会で林業経営に適した森林かどうかの仕分けをし、その結果に応じた管理方法で適切な森林の経営管理を行いたいと考えています。

② 木材利用行動計画について伺う。

松江市木材利用行動計画は、平成31年度以降の5年計画について策定を進められているものと考えています。

このうち、市産・県産木材利用量は、現計画の行動計画の目標と比較して

いるという傾向を生かして、FDAの路線エリアの新規需要開拓、体験型のコンテンツの充実など、宿泊者数の増加やリピート化につながるような引き続きの努力を重ねたいと思っています。

② 若者流出を止める取り組みについて伺う。

東京集中を極めた先に人口拡散時代が来ると藻谷氏は推測されています。世界で最初に高齢化のトンネルを抜ける山陰の未来予測として、高齢者の増加が止まった山陰から子どもが増えだすと、思いがけない予測を聞きました。

2045年、25年先の長期的な観点から若者流出を防ぐ取り組みとは何だと考えるのか、その取り組みに必要な準備は教育であり、地域の魅力化の向上もあると考えますが、お考えと取り組みを伺います。

森山産業経済部長 若者の流出は、大学進学を機に他の都市へ転出し、そのまま地元に戻らないことが主な理由の一つで、大変重く受け止めています。

若者を松江へ帰すためには、ふるさと教育や地元企業を知る取り組みを継続して実施していくこと、若者が大都市生活にストレスを感じ始めるタイミングを捉え移住の動機を

のようになったのか。また、まがたま学園への木材供給後はどのようになるのか伺います。

木材会社や工務店からは、住宅建築のために市産材を利用したいが、出荷が少ないために利用できないとの声を聞きました。民家住宅での市産材の使用希望はまだまだあるということ。数量を目標数値まで上げる努力が市や森林組合相互で必要だと思っています。新しい計画の目標への考えを伺います。

森山産業経済部長 現計画では平成26年から平成30年度の5年間で、1,000立米の木材を利用する目標を立て、公共建築物等の木造化・木質化に取り組んできました。その結果、平成30年度末の実績見込みで、2,227立米で、達成率が223%となりました。その要因は、玉湯まがたま学園において木材使用量が増え、目標を大きく上回ったものと考えています。



荒れる里山対策が急務

与えることも効果的な取り組みであり、その後の定着にも大いに寄与するものと考えています。

Q 人材と交流人口を増やす地方創生の取り組みについて

①熱中小学校の取り組みによる人材育成と交流人口の増加対策について伺う。

自発的に考え行動する人材市民を増やすことが肝要であり、「熱中小学校」という地方創生の取り組みを本市に取り入れられないかと質問をします。

熱中小学校とは、「大人の社会塾」で、「もういちど7歳の目で世界を」をテーマに、地方に人的交流を呼び込み、人材、仕事、文化、街のにぎわいを取り戻すことを掲げ、現在では全国で11校以上が開校しています。

地方創生のための一つの取り組みですが、実施する人たちが、参加する人たちの両方に刺激的な講義や対話を通して、新しい社会づくりに挑戦する人材の育成が期待できます。本市でもこのような取り組みの考えはないか伺います。

松浦市長 熱中小学校という提案は、

平成31年度以降の次期計画策定では、各課が管轄する建築物整備計画を集約した上で利用目標を作成し、現在内部協議を行っているところです。

次期計画は、新庁舎でも木質化を計画するなど、今後関係部署や木材協会、森林組合を含め、検討会を実施していきます。本年4月以降、新たな森林管理システムにより森林組合と連携を図り、木材生産の拡大につなげていきたいと考えています。

6月定例議会予定

6月19日(水) 本会議(会期の決定、提案説明)

24日(月) 一般質問

25日(火) 一般質問

26日(水) 一般質問・議案質疑・委員会付託

27日(木) 総務委員会

28日(金) 教育民生委員会

29日(土) 教育民生分科会

7月1日(月) 経済委員会

2日(火) 建設環境委員会

3日(水) 建設環境委員会

4日(木) 予算委員会

5日(金) 予算委員会

6日(土) 本会議

7日(日) 本会議

8日(月) 本会議

9日(火) 本会議

10日(水) 本会議

Q 森林環境議与税と林業振興について

①「新たな森林管理システム」による市の取り組みについて伺う。

大変おもしろいと思っています。松江の歴史をひもとくと、藩校はもとより私塾が雑賀町を中心に沢山あったというところであり、そこから沢山の偉人が輩出されているという伝統があります。学びたいという欲求を持つ方々が伝統的に沢山いる地域であり、もう一度そういう取り組みを復活させていく必要があると思っています。

そこで、今、首都圏大学の教授陣との学術連携によるまちの交流、地元出身で首都圏で活躍をしている経営者と地元経営者との交流事業を考えていますが、こうした交流を深めて、将来的にはさまざまな分野のスペシャリストである講師陣を迎えてリレー方式で講演を行う学びの場を提供していきたいと思っています。

若いころいろいろ考えてなかなか実現できなかった思いや人生生涯現役として生きがいを見出そうと考えている方も沢山いるわけで、そういった人たちの思いや、実践への仕掛けをこれからもつくっていききたいと思っています。